

新体操男子 採点規則 Q & A

Q 1 団体競技のジュニアルールで、後転とびからの伸身宙返りを 6 人で実施した場合は D 難度とあるが、同時に実施した場合のみ採用されるのか、またロンダード入りでなくてもよいのかを教えてください。

A 6 人全員が実施していれば、同時でなくても D 難度として数えてください。入りはロンダードからでなくても採用されますが、高さ不足になった場合は実施で減点されます。

Q 2 団体競技で、何人かが倒立やバランスで失敗した場合や柔軟が硬い場合の難度の取りかたを教えてください。

A まったく実施しない選手がいた場合は、構成から要素不足（1 人 0. 2）し、徒手系の難度は数えません。実施したが成功しなかった（柔軟が硬かった）場合は、要素不足減点なし、徒手系難度も数えてください。減点は実施審判のみになります。

Q 3 団体競技で、3 回連続の後転とびから後ろとびひねり前方宙返りを 6 人で実施した場合の難度を教えてください。

A c 難度になります。3 回以上の連続した後転とびからの宙返りについては、後方伸身宙返りまたは後方伸身宙返りに 1 / 2 以上のひねりを加えたもののみが D 難度の対象となります。

Q 4 団体競技で、演技開始や終了で認められた 3 秒以内の接触の中に徒手系難度があった場合の扱いについて教えてください。

A 接触とは無関係に、全員が徒手系難度を行っていれば採用されます。

Q 5 難度表に載っていない技を実施した場合の扱いを教えてください。

A 男子新体操は新技申請の制度を取っていません。また一つの技が、さまざまなバリエーションをもって構成されることが多く、そのすべてに難度をつけることができていません。2015 年版では徒手系難度が導入され、更に難度の組み合わせが複雑化すると考えられます。現状では、その時の審判が類似した技から判断をしていくこととなります。

Q 6 個人競技で、2 本投げの片方を落とした場合の要素と難度の扱いを教えてください。

A 投げの要素は投げた時点で確定するので、要素は認められます。また、難度は片方でも取れていれば数えてください。ただし、2 本投げで D 難度を行った場合の追加の難度は、成功したときのみ数えることができます。

Q 7 2 本投げの 1 本が低かった場合の要素の扱い方を教えてください。

A 2 本投げは 2 本ともが、体から離れた位置から 2 メートルを越えた場合に要素として数えられます。1 本が低い場合は、投げ上げの要素のみになります。

Q 8 一つの転回中に、リングを次々と投げた場合の要素と難度の扱い方を教えてください。

A 手具を次々に投げた場合の投げの要素は、その投げの回数と種類をすべて数えることとなります。また、難度はその投げの間に何を何回行ったのかで判断することとなります。例えばリングを 1 本投げ、さらに 1 本投げ、1 本目のリングを取る間にシエネを 1 回してキャッチ、2 本目のリングを取るまでの間に前転を 1 回行った場合、1 本目の間で 1 動作の B 難度、2 本目の間に 2 動作の C 難度となります。ただし、このようにキャッチが難しい場合や、転回中に投げるなど組み合わせが難しい場合は、組み合わせ価値の高い技としての評価をしてください。

Q 9 ハミングで歌った曲を伴奏音楽で使っている選手がいましたが、違反ではありませんか。

A ハミングは音楽としては認めることができます。ただし、審判員が新体操の伴奏音楽の定義（競技規則 8-45）から外れていると感じたら、構成の音楽と動きの関係から 0.05～0.3 の減点されることがあります。

Q 10 転回系の助走で、手具操作をしなかった場合は減点ですか。

A 全く手具操作がなく、手具の静止と見えた場合は 0.1 の減点をしてください。

Q 11 宙返りの間に、手具の持ち替えを 2 回行った場合はランクアップの対象になりますか。

A なりません。持ち替えは何回行っても 1 つの操作として数えます。

Q12 B→A→B の転回で、B の部分の両方それぞれで手具操作を 2 回ずつ行った場合は C→A→C の D 難度となりますか。

A なりません。連続した転回はひとくりとして扱い、難度の格上げは 1 ランクアップまでです。

Q13 クラブを 1 本投げている間に、前方宙返り 1 回ひねりをしながらもう 1 本の手具を 2 回操作した場合、追加の難度の対象になりますか。

A なりません。追加の難度は保持した状態で D 難度になる技に、投げまたは 2 回以上の操作が加わった場合のみ対象となります。

Q14 視野外の投げは投げた時点で、追加の難度として扱ってよいですか。

A なりません。追加の難度の項目は、成功した時点で加点の対象となります。

Q15 シェネターンの足が開くと姿勢減点されるとのことですが、故意に開いて行っている場合も減点するのでしょうか。

A 状況によります。審判員が見て、姿勢が崩れている、または緩んでいると判断した場合に減点となります。

Q16 投げ上げと投げ受けの要素の違いが判りません。

A 投げについては、要素と難度の関わりで混乱されることがあるようです。以下のとおり理解してください。

1 投げに関する要素

①投げ上げ 3 回以上

すべての種目で必要。受けることができなくても要素として数える。

②投げ受け（右投げ右受け、左投げ左受け）

スティックのみに求められたもの。受けることができれば要素として数える。ただし受けることができなくても①の対象になる。

③2 本同時投げ

リング、クラブのみに求められたもの。受けることができなくても要素として数える。

2 投げに関する難度

すべての投げについて、受けることができるとして認められる。追加の難度も同様。

Q17 個人競技において、B 難度のバランスを操作なしで行った場合の扱いを教えてください。

A 個人競技では、徒手系難度を手具操作なしで行った場合は難度として数えません。なお、この場合の手具操作とは転回系でのランクアップさせるための操作とは違い、何らかの操作がされていればよいので、ご注意ください。

Q18 個人競技の徒手系でバランスや柔軟を行う場合は、2 秒以上の静止をする必要がありますか。

A 倒立、バランス、柔軟はすべて 2 秒以上の静止が求められます。ただし手具が 2 秒静止した場合は減点の対象となります。

Q19 肘をついた側転は転回系に含まれるのか教えてください。

A 含まれません。側転を除く接点技は徒手系と定めています。このことから側転は転回系としていますが、この場合の側転とは、伸腕のものに限定しています。肘をついたものや頭支持のものは徒手系に含まれることになります。